



## 大にぎわいの例大祭

大同2（807）年開山といわれる<sup>うのとり</sup>鵜鳥神社の例大祭が5月19日（旧暦4月8日）に行われ、村内はもとより、三陸沿岸各地から訪れた多くの参拝者でにぎわいました（写真）。

同神社は大漁、海上安全、縁結び、安産の神として

古くから信仰を集めています。例大祭では、境内に屋台なども並び、参拝者は本殿に手を合わせ、卯子西山の山頂に鎮座する奥宮拝殿を目指して登って行きました。

参拝者はそれぞれの思いを祈願したあと、おみくじやお札を買ったり、神楽殿で舞われる鵜鳥神楽を觀賞したりと、思い思いに楽しんでいました。

五月二十二日、村生徒指導連絡協議会総会が村教育委員会主催（沼田英雄教育長）で開かれ、同協議会の会員約五十人が参加し、平成十四年度の事業計画など話し合いました。

同協議会では、学校と村民が一丸となって、地域の教育力を高め、児童・生徒の健全育成に努めることを確認しました。

続いて、「携帯電話犯罪（被害）の実態について」と題して久慈

## 生徒指導連絡協議会 講演 『携帯電話被害にご用心』

警察署生活安全課の荒木田聖生活安全係長が講演しました。



同講演で荒木田係長は、個人情報に犯罪に使われる具体的な被害事例―クレジットカード番号盗用・ひぼろ中傷・脅迫・暴行・覚えのない利用請求などを挙げ、「自分の個人情報がどのように利用されるのかよく考えてほしい」と思いますが、携帯電話からデータを抜き取ることは簡単にできます」と結びました（写真）。

一人ひとりがしっかりと認識し、被害に遭わないよう工夫したいものです。



春の風物詩となった村の漁家の養殖コンブ漁が始まっています。港から約十五分の養殖場についた船は、機械でコンブのついたロープを巻き上げます。すると十センチ以上育ったコンブの束が海面から姿を現し、船に積まれて行きます。約一時間の作業で船満杯に



コンブを積んで船は帰港します。陸に上げられたコンブは、普及名産の「すき昆布」や「長きり」に加工され、完成した製品は関東方面に出荷されます。朝は早からの重労働に、漁家の皆さんは毎日元気に笑顔で頑張っています。

帰港した船はクレーンでコンブを吊り上げトラックに積み込みます。積まれたコンブは加工場で湯通しされ製品になります。写真はコンブの吊り上げ作業中の様子です。